



玉塚天保と 天保銭教(下)

玉塚栄次郎氏が、その成功の後、人々に配った紙片を読んでいると、玉塚氏が商店に奉公をしていた小僧時代に遠方に用事にやられた場合、昼食代として、その都度、主人から天保銭二枚ずつ貰っていたことが知られる。

これは明治五年以降のことと考えられるから、天保銭の通用価格は八厘であり、一文銭は十文通用で、一厘と同じであった。

なお、これを明治二十年頃と考ええるなら、「もりかけ一銭」であり、牛飯も一杯一銭

ご協力ありがとうございました
さきごろ行った「アンケート調査の回収率が六八・七%に達しました(二月二十二日現在)。これは過去三回行った調査の中でも最高

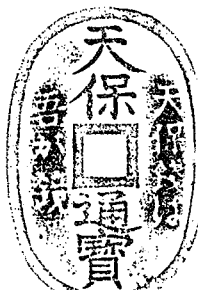
天保銭物語(七)

阿達義雄

位であつたから、天保銭二枚なら一銭六厘で、蕎麦でも牛飯でも一杯で我慢すれば六厘だけ残ったはずである。玉塚少年は、その時その全部は使わず、必ずその幾分かを貯めて置いて、後々の独立のために備えたということ。これは都会の商家に奉公してゐた小僧としては感心な方であつたであらう。

ただ、玉塚少年の場合、天保銭を握つて之を有難く思つてゐるうちに、金銭一般からではなく、この天保銭という他の人々から八文として輕蔑されてゐた。銭から

商店の杜則として、その社員達の指針としたのであつた。この杜則を熟読してみると玉塚氏が「一条毎に「己を天保銭と思ひ」と繰り返していることによって、天保銭を自分の外にある貨幣や物質としてではなく、自己の心として



森山八郎氏所蔵の
玉塚天保の拓本

才能の足らぬ未熟な人間と思ひて、慢心、怒り、不平を起さぬ事
三、己を天保銭と思ひ、己の足らぬ所を省み、之を補ひて当百の人間にならんと、努力する心を失はぬ事
四、己を天保銭と思ひ、己の慾の十分を願はず、八分目に満足して、二分は将来に預け置くものと思ふ事
五、己を天保銭と思ひ、一枚八文ほどの端金も、すべて宝と思ひて軽々しく振舞はぬ事
六、己を天保銭と思ひ、常に資財を八分目に費し、二分の余裕を将来の為に蓄へる事
七、己を天保銭と思ひ、金の用ふべき場合をよく弁へ無益に使ふ金を惜しむ、有益に使ふ金を惜しむ事
八、己を天保銭と思ひ、何事も一時に十分の効を思はず、急がず、機ます、着実に進んで己の今日あるを喜ぶ

自分の世渡りや生き方についての教訓を感得し、発見すると共に天保銭を自分の御守りのようにに肌身を離さずにきたという点に彼の独自性があり、天保銭も道德的、信仰的なもの

活入したことは嘆賞に値することであらう。したがって、玉塚氏が天保銭に彫つた「天保銭は吾が鏡」の語句は、右の天保銭の教訓が自分の信仰として叩められたものであり、「天保銭は人の鏡」の語句は天保銭の教えを自分だけでなく、一般の人々にも押し及ぼそうとしていたことを語るものである。

二、己を天保銭と思ひ、知徳

お買物、ご用命は市内で

ガスもれを光と音でお知らせします

(((都市ガス警報器)))

新潟県ガス協会認定品 CZ-125 7,900円
YP-810 6,900円

お取付のご用命は

越後天然ガス(株) TEL(4)2171

室内装飾・美術表装・襖・壁・額

表具 一心堂

一級技能士 鈴木正義 本町3番 2-2035
訓練指導員